



議会だより

No.27

2012年8月1日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会



たてち
新緑に煙る神秘の垂天池

6月定例会・主な内容

仙北市議会6月定例会……	2
予算常任委員会……………	3
一般質問……………	4～8
常任委員会……………	9～11
新委員会構成……………	12～13
議会報告他……………	14～16



群泳する大鯉

垂天池の紹介は 13 ページ下段で

第3回 仙北市議会6月定例会

平成24年6月4日
最終日：6月29日

平成24年度一般会計

1億6千7百54万円の補正予算を可決



一般会計補正予算1億6千7百54万円

この補正によって本市の一般会計の総額が184億2千2万円になる。

6月定例会の会期は6月4日から同29日までの26日間だった。内訳は本会議5日、委員会4日、休会17日の日程になった。提案された主な議案は「一般会計補正予算」「介護保険特別会計補正予算」「病院事業会計補正予算」「水道会計補正予算」「平成24年度光ブロードバンド設備整備事業工事請負契約の締結について」「公共下水道田沢湖浄化センターの再構築工事委託に関する基本協定の締結について」等11議案と最終日に提案された「副市長の人事同意案件」が主な内容だった。副市長人事案件に付随する予算案に対する修正案の提出を除けば、一般質問者6名、議案質疑の通告者1名の比較的静かな定例会となった。

一般会計補正予算・特別会計補正予算の主なものは「公共施設再生可能エネルギー等導入事業」「災害廃棄物受け入れ事業費」「強い農業づくり交付金事業費補助金」特別会計補正としては「病院事業会計」への補填などがあげら

れる。
最終日は討論、採決が行われ全議案とも当局の原案通り可決された。

補正予算事項別主要経費の主なもの

街灯費 275万円

4月3日から4日にかけての暴風によって倒壊した内川橋（角館・仙北警察署と角館南高校の中間にある橋）の街灯の改修費。（一般財源）

中学生入院医療費助成事業

194万円

8月1日施行の市内小学生以下学童、児童の入院医療費無料化を市単独で拡大し中学生まで入院医療費を無料化するもの。（一般財源）

公共施設再生可能エネルギー等導入事業費

1006万円

上檜木内「紙風船館に5kWの太陽光発電パネルとリチウムイオンバッテリーを設置し、災害等で長時間停電した場合の最低限の照明や通信システムの確保、情報収集のためのテレビ・インターネット通信の電源の供給等の災害対策補助事業。順次主な公共施設に整備する予定。（国県補助金）

病院事業会計補助金

1280万円

病院事業会計へ（本市への医師招聘事業として医学生2名に対する奨学金。）（市債）

災害廃棄物受け入れ事業費

4734万円

三陸津波被災地からの不燃ガレキを向生保内、相内沢にある田沢湖一般廃棄物最終処分場に搬入埋め立てするため取り付け道路の整備、施設の整備、重機の借り上げ料金等（その他の財源）

強い農業づくり交付金事業費補助金

3600万円

農事組合法人（中川ファームクローサワ）に対する補助金（国県3千万円一般財源600万円）

農業者体質強化基盤整備促進事業費補助金

550万円

湯野地区基盤整備への補助金（国県550万円）

都市計画決定変更事業費

412万円

角館落合地区に建設予定の市立角館病院改築予定地が市の都市計画地域に該当するため従前の都市計画の決定事項を変更するための測量等を含む

む経費（一般財源）

国民文化祭推進事業費

239万円

徳島県への視察及び東京での打ち合わせの旅費（国県60万円一般財源179万円）

公共土木施設災害復旧事業費

561万円

凍上災害（2月の厳寒によって市道路床が凍結膨張し舗装が損傷した部分）の補助金を請求するための測量調査費。（一般財源）

（阿部則比古記）



予算常任委員会

本予算常任委員会は、議会改革推進協議会から改革答申を受け、議長の指示により議会運営委員会にて協議し、2月議会最終日に条例改正を行ったものである。

予算常任委員会を設置している市議会は、県内では本市が初めてである。全国でも本市議会の審査方式を採用しているのは、20程度なので、標準的な先例がまだ確立していない状況である。今回の審査方式は、平成18年の地方自治法改正により議員の複数常任

正が、制度上、比較的容易になったことである。

■予算常任委員会に付託された案件は、平成24年度仙北市一般会計補正予算（第2号）1件である。

○議案質疑の後、予算常任委員会の審査は、会議規則第95条の規定により、総務文教、市民福祉、産業建設の各常任委員会の分科会として設置し、所管する款、項ごとに、分担して審査を行った。

○総務文教、市民福祉、産業建設の各常任委員会の分科会報告の後、会派質疑を行い、討論、採決を行った。

●議案第65号、平成24年度仙北市一般会計補正予算（第2号）に対する修正案提出

【提案理由】

人事案件の正式提案前に、「同意ありき」とも取られる

副市長に係る経費を含んだ補正予算案の審査には非常に問題がある。従って、人事案件の正式提案と同時に当該補正予算を提案すべきである。との理由から、副市長の赴任旅費と住宅の借り上げ料を、予備費へ組み替える修正案である。

○討論

△反対△副市長の同意案件が提出される前の補正予算に、副市長の赴任関係の予算が計上された事は、妥当な予算措置と言わなければならぬ。

他の自治体でも、県あるいは各省市町村から招聘するには、予算を措置する事が一つの儀礼となっている。そうしたものであっても、大変な非礼にあたるものではないか。

△賛成△筋道として、副市長の人事に関する予算であるから、当該予算も含めて最終日に提案されても良かったのではないかと。総務文教分科会の報告でも同様の議論になったと察している。筋道の通らないものは議会として、修正、又は認めるわけにはいかない。道理が通らないものに対しては、議会が修正するしかないという判断である。

○採決

修正案については、賛成少数で原案を否決

原案である議案第65号、平成24年度仙北市一般会計補正予算（第2号）については、賛成多数により、可決

（熊谷一夫記）

平成24年 第3回 仙北市議会定例会（招集日：6/4 最終日：6/29）

議決結果・議員評決（議長除く） 凡例 ○：賛成 ×：反対 欠：欠席

議案番号	件名	議決月日	高橋豪	熊谷一夫	門脇民夫	平岡裕子	狐崎捷琅	田口寿宜	阿部則比古	佐藤直樹	黒沢龍己	小田嶋忠	荒木田俊一	安藤武	小林幸悦	伊藤邦彦	青柳宗五郎	八柳良太郎	田口喜義	藤原助一	高久昭二	稲田修
議案第65号	平成24年度仙北市一般会計補正予算	6/29	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	欠	×	○

一般質問



・空き家の条例制定促進に向けて

民政会議 門脇民夫 議員

質問 空き家の適正管理に関する条例制定促進に向けて

過疎化の進展、居住地の移動などで空き家が増えている。豪雪による倒壊、強風による建物の飛散等により周辺の市民生活への影響も出ている。

条例制定により、空き家の適正な管理のもと、市民を被害から守るため次の5点について伺う。

一、市内空き家の実態調査結果について

二、空き家バンクの利用状況

三、空き家の雪害、風害の被害状況について

四、所有者不明の税の徴収について

五、公共の安全に危害を及ぼす空き家の取扱について

答弁 空き家の適正管理に関する条例制定については、空き家の管理上、条例制定を必要とするもの、必要としないものなど総合的な判断を要するが、今その検討に入っている。

ご質問の市内空き家の実態は、491棟あり、空き家バンクについては、市が目指す定住希望者の受け皿として貴重な資源でもあり、調査を進めてまいりたい。

3点目の質問であるが、今年は特に豪雪であったためか、3件の倒壊の被害が発生しており、春先の暴風雨では、住家3件の被害である。

次に所有者不明の空き家に対する税の質問であるが、不明になった時点での所有者に



空き家の適正な管理に関する条例の制定が待たれる

課税しており納税通知書が返送されてきたときは、相続人の調査をし、対応している。

又、5点目の質問であるが市及びその所有者が連携して管理に当たることが安全、安心な地域づくりに繋がると考え条例制定に向けて検討を進めてまいりたい。

質問 上松木内高野遺跡について

当遺跡はすり鉢状のくぼ地が何十ヶ所もあり、古代人の竪穴住居跡と言われてきた。

昨年県で発掘調査を行ったがその結果を伺う。又、同遺跡を復元し子供達の学習や観光資源として活用できないか。

答弁 (教育長) 調査結果により新たに住居跡が18基確認され、全部で65基と判明した。遺跡の活用については文化庁の許可が必要だが、子供達の学習用として又、観光資源としても重要であると考えている。

しかし、まだ全ての遺跡の調査が完了していないので、関係機関と協議して検討してまいりたい。

質問 仙北市の森林内の路網整備について

林業のグローバル化に対応すべく高性能機械を入れコスト削減を図る必要がある。

それには、森林内の路網整備が急務である。

今年県議会では林内の路網整備に関する条例が成立した。

条例は路網整備に関して、県に対し、財政上可能な範囲で積極的な整備を求めている市は同条例をどう活用するかを伺う。

答弁 林内の路網整備は機械化を促進し木材コスト

トを下げる上で重要である。県条例に路網整備に一定財源が確保される意義は大きい。

仙北市も具体的施策を計画して遅れることなく整備促進に力を入れてまいりたい。

質問 救急医療情報ブレスレットについて

現在市では高齢者の一人暮らし世帯にかかりつけの病院、服用薬等の医療情報を入れた救急キットを配布しているが、保管場所が冷蔵庫のため外出時活用できない。

千葉県鎌ヶ谷市では、昭和61年から40歳以上の希望者に、その人の医療情報を刻印した救急ブレスレットを首にかけていただき、救急事態が発生したときの救命に大きく役立つとしている。仙北市でも導入する考えはないか。

答弁 現在市で配布している救急医療キットの配布率は54・3%で100%配布を目指しながら、一方、個人情報に留意しながら、ブレスレット配布の検討も並行して行う。

(伊藤邦彦 記)

一般質問



「白岩焼釜跡」の毀損事件について

仁政クラブ 佐藤直樹 議員

玉川の河川改修の早期実現を

質問 平成23年度の防災計画改訂版によると、計画の方針に、未改修河川の整備を促進するとある。対策として、①特に玉川の未改修については、早期完成が図られるよう各関係機関に要望していくとあるが、河床整備・堤防の建設を含め、国・県に対し、どのような要望を出し、どう対応しているのか伺う。

答弁 玉川の河川改修、大威徳橋の架け替え等について、これまでも県へ事業

推進を強く要望してきている。昨年の大雨の際に一部浸水をした大威徳橋から斉藤川合流付近等について、今年度は現地調査の上、河床整備並びに堤防の低い箇所への盛土整備をする予定と伺っている。斉藤川合流点付近、上流部については順次整備計画を策定する予定になっているが、これは一時的な処理で、本格的な河川改修について、県や関係機関に再三の要望を行っている状況にある。

質問 下川原地区、下中川原地区、上中川原地区は特に道路が川と平行した広久内停車場線の県道しかないに等しい。豪雨災害の際数百メートル行けば安全な高さである生田地区まで逃げる市道がないのが現状である。減災の観点から、避難道路の整備を早急に行うべきと考えるがどうか。

答弁 玉川と平行して県道白岩広久内停車場線、市道観光線が走っており、それを結ぶ連絡道が市道生田松原線他5路線ある。その他にも連絡道があるが、県道浸水時の避難道路として、改良、舗装工事、市道認定を順次計画的に進めていきたい。又、登記の問題のある箇所について

では、一刻も早く整え、市道認定等を進めていくという事で方向性を決めていきたい。

質問 庁舎整備に関する基本方針について

答弁 みんなの庁舎検討委員会の答申を受けての市長の考え、更に合併特例債が5年の延期になることから、償還がダブらないようにということ、一体型庁舎の整備を当初の予定より5年延長し、平成31年としたのはわからなくはない。しかし、行政の無駄を省き、利便性を高める観点からすると、1年でも早くやるべきである。今年度中に一体型庁舎を含め、角館庁舎の移転先を検討すべきと思うがどうか。

答弁 (教育長) 一体型庁舎に至るまでの経緯では多くの議論が必要である。今年度中には角館庁舎のあり方を示すことが出来る方向性を導き出したい。

財政的な部分を考えると、投資コストを出来るだけ抑えるという手法がどうかかというところをまず見極めなければならぬ。合併特例債の延長5年は、法案は机上上がっているが、審議できていない状況にある。

ただ、5年は延長できるという情報は聞いている。5年延長できるからゆくり構えるということではないことは、きつちりと話しておきたい。

質問 角館庁舎は、25年度中には解体することは間違いのないのか。

答弁 24年度には移転に関する調査検討を行い、27年度までには火除けを復元したい。その為には25年度あるいは26年度の解体が必要と思う。どこに入居するかという調査は、24年度にはベクトルをきつちりと設定することが必要と考えている。

質問 県指定史跡、白岩焼釜跡の毀損事件について

質問 今回の事件の一番の原因は何か。

答弁 (教育長) 本来であれば、秋田県文化財保護条例により、現状保有変更手続きを所有者の方に促すべきであったが、それを担当が失念してしまったことが一番の原因であると捉えている。本当に衷心より謝罪申し上げたい。今後、県文化財保護課の指導を受けながら現状をきちんと回復していきたい。

質問 白岩焼きを愛し、好意を持っている方々が多くいる。その方々の疑念は晴れていない。名譽の復活に向けた当局の考え方と行動を伺う。

答弁 (教育長) かかる事態が二度と起らないよう、また、私たちはまちづくりを応援する最大のパートナーという気持ちで地域の方々と接することが出来るよう、これから体制の整備等に努めていくので、どうかご理解をお願い申し上げます。(田口寿宜記)



史跡に対する意識をしっかりと(県指定史跡 白岩焼窯跡)

一般質問



・所得向上策について

田口寿宜 議員

質問 所得向上につながる観光戦略会議、仙北市将来ビジョンについての具体策は。

答弁 提言内容は、市職員の取り組みで解決できるもの、じっくりと検討をようするものがある。

地域ブランド確立のために、田沢湖・角館のロゴマーク作成。田沢湖・角館観光連盟を設立。仙北市のイメージアップと誘客を図っている。教育委員会にスポーツ振興課、田沢湖病院の救急病院指定、医師確保対策として医療

局を設置した。

角館拠点特別区では、外町への観光客の誘導、商店街の活性化。岩瀬北野線の南進や角館病院の移転などのかかわりが大変重要であると考え

田沢湖畔拠点特別区では、クニマス関連で秋田未来づくプロジェクト事業の中で、県と共同で取り組んでいく。

乳頭・高原・玉川・水沢拠点特別区では、温泉泉質の効能等を医学的に検知し温泉療法医療制度ができるように検討している。仙北市ならではの仕組みづくりを進めたい。

通信インフラの光ファイバー整備は、計画的に事業が進んでいる。

田沢湖スキー場でのモーグルスキー大会誘致など努力している。

総合産業研究所を中心にして、国民文化祭では、お餅をテーマにした事業も検討している。

質問 事業に伴う予算は、市民の生活に好循環になっているか。

答弁 所得を10%上げましょうと私が発言したことで、市民の方々が黙っていても10%上がるというような誤解があるとすれば、発信

がまずかったかと思っている。市民所得を上げるための行政政策・施策は当然行うが、経済活動は、民間の皆様が一生懸命行っていたかなければいけない。好ましい循環はま

だできていない。

質問 産業振興条例が施行されている。動きが鈍いように思うがどうか。

答弁 本条例の重要性を市民の皆さんと共有することがスタートと思っ

ている。市内への企業立地の問い合わせや相談等が増加している。良いニュースを報告できる日も近いかなと感じる。

角館町内で空き店舗利活用の補助金申請が2件、商工業企業等応援事業の補助金活用した出店1件、市内事業者の取り組みが活発化していると感じる。

条例の理念をさらに広めることで活動の活発化が望めると思う。

質問 行政と市民の思いの違いをどのように埋めていくのか。

答弁 産業振興基本計画を策定し市民の皆様と意思を共有する。段取りができれば具体的な行動になると思う。

質問 所得向上に結び付く観光産業に生かす施策は。

答弁 仙北市は、日本全国、国際的に見ても大変素晴らしい素材をたくさん持っている。仙北市の強みをどう生かすかが大変重要になる。誘客に結び付ける手段が一刻も早く組み立てられなければいけない。仙北市は天候、自然型観光である。子ども、女性、家族連れとかの観光は弱い。室内観光拠点の重要性を感じる。クニマス史料館(仮称)、曳山会館(仮称)、道の駅

等など検討は重要である。既存施設の最大活用、イベントの充実も重要と考

える。

質問 所得向上といえ

ば、総合産業研究所が話題になることに疑問を抱く。各課連携を図り、全庁的に本気度百パーセントで事業に取り組むための所見は。



商店街に賑わいを

答弁 所得向上のために、総合的な取り組みによって成し遂げられる。総合産業研究所だけが努力しているように見える場面が多々ある。毎週月曜日開催の部長等会議で情報の共有を図りたい。職員は、本気度百パーセント、ともかくにも進みたいと思っている。市役所の職員が部署を超えて共同しようというところから始めなければいけない。

(平岡裕子 記)

一般質問



クニマス里帰りプロジェクトについて

熊谷一夫 議員

と私も思っている。民間資金を調達して、小水力発電の試作機の製作にすでに取り掛かっている。

②産官学18団体の構成で奥羽山系仙北平野水資源調査委員会が発足している。

③今後、チームで、再生可能エネルギーの導入について勉強する期間を頂きたい。

クニマス里帰りプロジェクトについて

①クニマス里帰りプロジェクトの進捗状況と観光振興の具体策はあるのか。

②(仮称)クニマス史料館建設計画と「生きたクニマス」を展示する構想はあるのか。

③田沢湖畔の環境整備の現状と課題について。

①秋田県と山梨県で、クニマスの生態調査と玉川、田沢湖の水質改善及び調査を行っている。本市では、「クニマスシンポジウム」の開催や西湖のある富士河口湖町との交流事業に取り組んでいる。田沢湖の再生を目指す施策の一つ一つが観光振興に結びつくものと認識している。

②プロジェクトのテーマを「田沢湖再生」とし、クニマ

スの生体展示も含めた(仮称)クニマス史料館の整備などのハード事業と湖の水質改善に関するソフト事業を組み合わせる事を県と協議中である。

この史料館が、世界から人が集い、田沢湖の水質改善について議論する拠点とならなければいけないと思っ

ている。

③田沢湖畔のジェットスキーの禁止条例については、湖畔住民からも、一定の規制の必要性について要望が出ている。県に対し、条例制定も含めて湖面環境の適正化については強く要望をしていきたい。

学校の防災機能強化について

①災害時の通信機能・電力確保(自家発電設備)は大丈夫か。

②備蓄倉庫又は防災倉庫は設置されているか。地域住民が避難してきた際の備蓄食糧(三日分)はあるか。

③避難生活に不可欠な水の確保、方法はどうするか。

④地域住民との防災教育・訓練は実施した事があるか。

⑤防災教育の中で、非常食の試食等の訓練をしたことがあるか。

(教育長) ①今年度中に、市内全小中学校で、停電時でも一定時間通話可能な電話の整備が完了する。又、自家発電機の配備も今後計画している。

②③全市的な視野に立った配備、整備が必要と考えている。災害用備品については、14箇所で保管をしている。食糧備蓄については、4百人の9食分、3600食分を備蓄している。災害時の飲用水確保は、市内28箇所以上の水源地を確保している。

④平成22年に児童・生徒・地域住民・消防団等が参加して、西明寺小学校を主会場に、大災害を想定した仙北市総合

防災訓練を実施している。今後学校では、年間2から3回の訓練実施が義務付けられる。防災授業も今年度実施の予定である。

⑤本市では、非常食の試食訓練の実施はない。今後、災害時に予想される疑似体験をさせるなどの指導内容の充実と工夫をし、児童生徒が、自らの命を自ら守る実践力に結びつくように推進していきたい。



「クニマス史料館」として整備を待つ田沢湖郷土史料館

被災者支援システムの導入・運用について

質問 導入・運用する考えはあるか。

答弁 去年の11月に災害者支援システム利用許可証を取得してデモサイトの操作を実施している。画面確認もして、操作方法の確認も行っている。今、仙北市内で動いているシステムとの連携が必要となってくるのでこのシステムのセットアップは実施していない。

このシステムの有効性は認識しているが、維持管理と必要なデータの作成に経費がかかるし、災害時にどれだけのサービスを提供できるか検討中である。

(稲田修 記)

再生可能エネルギー(小水力発電)について

質問 小水力発電は、雇用の創出や、経済効果、地域の活性化、観光にも役立つし、本市には小水力発電設置可能な河川がたくさんある。その観点からどうか。

①小水力発電の導入に関する計画と市長の考えを伺う。

②官民一体となって連携して取り組む事の提案

③建設費用の民間資金導入について

答弁 小水力発電導入には、可能性が高い地域

一般質問

・市長のマニフェストの検証について問う

高橋 豪 議員



市長のマニフェストの検証について問う

質問 市長が先の選挙で掲げたマニフェストを検証し、それを有権者に明示することにより、次回の選挙の時に投票の判断材料にしてもらう、それがマニフェスト選挙の最も重要なことだが市長はどのように考えているか。

答弁 議員の指摘のとおりマニフェストの目標をきちんと数値化して「私はここまでに期間内に実現したい」と住民に約束するのがマニフェスト選挙だと思ふ。ただ、

私が選挙の際マニフェストとして掲げた8セクション40項目が現在既に、中に折り込まれているので市の政策の評価になると思つてゐる。

質問 いずれにしてもその結果をみて有権者が次の選挙での判断材料にするにはその検証が必要だと思ふ。それ故、今年の5月に市長が仙北市政策検証委員会を立ち上げたがその目的と設置に至るまでの経緯を説明して欲しい。

答弁 マニフェストのアクションプランについては市総合計画の実施計画に組み込んで平成22年度から市の政策としてさまざまな取り組みが実施されている。これまでに、本格的な検証手法、検証方法については検討課題となつてゐた。

昨年度マニフェストとアクションプランを連動する達成目標とする指標を作り、市役所内部で自己評価を行つてゐた。

この指標の達成目標が25年度の目標設定であつたので推進期間の前期平成22年と23年について政策検証を具体的にすると今度の目標である。

この検証の流れとしては、

三つの方法をとつてゐる。

即ち、①市役所内部で実施した自己評価 ②秋田経済研究所が実施した外部評価 ③今回検証中である市民による検証委員会である。

市民委員会はこれまで3回実施している。市民委員会は市民3名のほか学識部門、商工観光部門、NPO法人の団体から7名、計10名の方に委嘱している。

質問 平成22年度度の5月の仙北市の広報にマニフェスト検証委員会10名を募ると公募してから2年間設置されてこなかつた理由を伺いたい。

市民の方々が検証作業の公平性、客観性等を考えたときに手を挙げにくかつたのではと反省している。この2年間で市役所内部で自己評価を行い、今回のような委員会の設立になつたとご理解を頂きたい。

答弁 マニフェストと市の政策の検証は一緒だといふ考え方に変わったといふ認識でよいか。

マニフェストの検証というのは日常的に行つてゐる状況であるので行政に持ち込む物ではないと考えている。

地域運営体の課題と今後について

質問 地域運営体を設置した意義を今一度伺いたい。

答弁 将来特に農山村部に7割程度が減少するという統計上の推計が出てゐる。地域運営体の考え方というのは国や県がどんな風に変化しても自治の強固な仕組みさえあれば地域は存続し続けることができるということに基づいてゐる。その生活の基盤を作ることが地域運営体の基本的な考え方である。

質問 地域運営体の課題についてはどのように分析しているか。

答弁 行政の二重構造があるべしと整理し住み分けしていくことが最大の解決策である。

もう一つは地域運営体の認知度である。情報提供をこれまで以上に行い、全員参加で成熟を図りたい。

質問 地域運営体の財源は今のところ平成28年度までの時限立法の過疎債を充当しているがその後の安定的な財源の確保と行政改革にとまなう地域運営体の役割につ

いて伺いたい。

答弁 総務省では既にこの様な地域運営体的な活動を推奨するための制度設計は出来てゐる。それまでは過疎債で対応して地域を守る活動を続けていきたい。今後は、最初に五百万円ありきという考え方ではなくさまざまな事業に対して交付金を出すという考え方に変わってきたい。

行車については市内全域をカバーするのが地域運営体であるため、まちづくりの中核をなす団体ととらえてゐる。ただ、なんでもかんでも地域運営体にお任せするといふ考えは毛頭無く自助、共助、公助を目指している。

(狐崎捷琅記)



地域づくりの拠点となる
かくのたてまちづくり運営体の事務所前



総務文教常任委員会

総務文教常任委員会に本会議に置いて付託された案件は、議案1件請願1件である。また、予算常任委員会からは平成24年度仙北市一般会計補正予算(第2号)の内、総務文教分科会に係るものが分担された。

■議案第69号

光ブロードバンド設備整備事業工事請負契約の締結について

問 東日本電信電話株式会社との随意契約になるが、他に参加できる企業はないのか。また、今後もNTT東日本との契約になるのか。

答 東北地方では現在、自社の設備を持ち、サービスを提供できる通信事業者は、東日本電信電話株式会社しかない状況にある。他の通信業者も参入可能であるが、その場合は、大規模な設備投資が必要となるか、既存の設備を借りて行うことになり、採算の面からすると、応募は難しいと考えられる。

この事業に関しては、総務

省の指針で要項が示されており、今後もプロポーザル方式で実施する事になるが、今年度同様、東日本電信電話株式会社1社しか応募がないと予想される。

◎採決の結果

原案を可とすべきものと決定した。

■請願第1号

非核3原則の法制化を求める意見書の採択についての請願

添付の意見書(案)について、一部修正の意見があり、「核兵器を指す」とあるのを「核兵器廃絶をめざす」に修正した。

◎採決の結果

提案の趣旨に賛同し、全会一致で採択することとし、総務文教常任委員会委員全員からの議員提出議案として、本会議において提案することとした。

■予算常任委員会総務文教分科会 仙北市一般会計補正予算

総務部関係では、副市長に對する各手当について、またステップアップ事業について議論が集中した。

問 副市長就任手当、居住手当について、まだ副市長の同意をもらっていない中で予算を計上し、手続き上、問題はないのか。また、事前執行に当たらないか。本来、副市長の同意を得てから補正予算を提案するのが順序ではないのか。

答 あくまでも人物と予算と一連の形で提案するのが良かったが、若干の調整項目があり、この様な形になった。予算の事前執行という考えではなく、条件整備をして迎える準備を整えることと考える。

問 ステップアップ事業の中にある政策検証委員会について、なぜマニフェスト検証にこだわりの、予算を措置するのか。委員会は公募を使わず行うべきではなかったか、誤解が生じやすい。

答 40の政策が既に市民のための市の政策となっている以上、市民が公平な立場でそれ

を検証することが民主主義の基本ではないかと考えている。

教育委員会関係では、国民文化祭に関して議論が集中した。委員からは、

1, 是非、おやま囃子を加えていただきたい。

2, ささら舞は思い切つて武家屋敷で行えるよう、歴史的

背景の説明も含め検討していただきたい。

3, 佐藤貞子の生家、椎名其二、石川達三の母の生家等、説明表記をすべきである。

といった、国民文化祭に向けて3点の意見・要望が出された。

(田口寿宜記)



総務文教常任委員会の風景



市民福祉常任委員会

本会議、予算常任委員会より付託、分担された案件はそれぞれ6件と1件である。

も住民基本台帳法の適用対象となる。

議案第60号

秋田県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について

問 外国人登録法が廃止され外国人も住民基本台帳法の提要対象に加えられることだが、外国人の後期高齢者医療制度の保険料の請求はどのようになるのか。

答 年金の年額が18万円以上の場合には特別徴収として年金からの天引き、18万未満の場合は、普通徴収として納付書を発送している。外国人も住民基本台帳に加わるだけであり、後期高齢者医療制度の仕組みが変わるものではない。

議案第61号

外国人登録法の廃止及び住民基本台帳法の一部を改正する法律施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定について

説明 外国人住民について

議案第62号

仙北市墓地、埋葬等に関する法律施行条例の制定について

問 この条例が制定されることにより市で管理している墓地や火葬場の改修等が発生することになるのか。

答 新たに整備する場合の設置基準であり、既存の施設等についての改修はない。また、今までも秋田県から権限移譲を受けていた事務であり、法律の枠組みが市までと決まったことから、改めて条例を制定するものである。制定後に管理等が大きく変わるものではない。

議案第63号

仙北市多世代交流施設使用料条例の一部を改正する条例制定について

説明 改修後、調理室を一時間以上利用する人が多くなったことにより使用料を一時間につき500円いただくことにしたい。減免措置もある。

議案第66号

平成24年度仙北市介護保険特別会計補正予算(第1号)について

問 木質バイオマスからの熱供給は順調であるが、にしき園の給湯使用量がピークになると、既設ボイラーが稼働し重油代がかかり増しになる。それを防ぐために、加温水槽を設置することだが、バイオマスを有効利用するため、別の給湯タンクを設置し、使用量がピークになる前に、大量のお湯をためておくことはできないのか。

答 確かに貯湯槽の容量を大きくすると可能だと思いが、大規模な工事となってしまう。原因は、給湯使用量が増えると貯湯槽のお湯が少なくなり、そこに直接水道水が入ってしまうので、貯湯槽の温度が下がり、既設ボイラーが稼働してしまうことになる。したがって、貯湯槽に入る前に、バイオマスの熱を利用して、新たに設置する加温水槽で熱交換を行い、温かくなったお湯を送り、ボイラーの稼働を抑えるものである。バイオマスを有効利用する考えに違いない。

議案第67号

平成24年度仙北市病院事業会計補正予算(第1号)について

問 市立角館病院建設に関する満足度調査について、改めてどういう調査なのか。

答 患者、病院スタッフからアンケートを取り、市民の声を反映させ、あるべき自治体病院の姿にしたいというものである。市民の意見を取りまとめ基本設計に盛り込みたい。病院建設特別委員会とも調整し、意見交換しながら検討し実効性のある調査とした。

採決結果

全議案全会一致で可と決した。

平成24年度仙北市一般会計補正予算(第2号)

問 8月1日から小学校卒業まで福祉医療費助成制度が拡大されることを評価する。また中学生の入院まで拡充するとのことだが具体的にどうなるのか。

答 小学生は入院と通院、中学生は入院のみである。住民税の非課税世帯では負担はないが、課税世帯には、上限一千万の負担が発生する。

問 災害廃棄物受入事業費の

内訳はどうなっているか。
答 県の業務委託になる。8月から受入れた場合の概算である。受入れの用途は経っていない。

問 待機(保留)児童解消のために角館保育園の増築、佐藤義亮邸を改修しているがいつから利用できるのか。また佐藤邸を使つての保育は有料ボランティア団体に託すことになるが、公立保育所と保育料の開きが懸念される。

答 角館保育園は11月、佐藤邸は、9月を目標にしている。保護者への助成制度、子育て家庭への支援制度を詰めて開始まで検討したい。

(平岡裕子 記)



市民福祉常任委員会の風景



産業建設常任委員会

本会議より付託された議案は3件、予算常任委員会より付託された議案は1件である。

■議案第64号

仙北市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について

問 西明寺地区簡易水道により田沢湖方面に拡張される事は、市町村合併の効果である。神代地区の水源確保に向け、2月定例会では、航空機を使った電子探査により水源を探す手法もあるとの回答があったが、本年度の予算には計上されているのか。

答 電子探査に関する委託料は数千万円かかり、今年度の予算には計上していないが、それに向けた地質等の調査費として10万円の予算を計上している。

全会一致で可と決定

■議案第68号

平成24年度仙北市水道事業会計補正予算(第1号)

問 予算の組み替えという説明だったが、その理由を示していたideきたい。

答 開発費や試験研究費などは、これまで繰延べ勘定として5年間に分けて経費として計上してきたものが、今回の地方公営企業会計制度の見直しにより、単年度で計上する事と改正された事に伴う予算の組み替えである。

全会一致で可と決定

■議案第70号

仙北市公共下水道田沢湖浄化センターの再構築工事委託に関する基本協定の締結について

問 ①補強する部分について、これから先、どれくらい稼動可能なのか。

②委託先として日本下水道事業団になっているが、他に委託先はないのか。1ヶ所だけでは、競争原理が働かないのではないか。

③新設するとなればどれくらいの金額がかかるのか。

答 ①補強については、土木は阪神淡路大震災の地震が起きた時に耐えられる構造に、

建築は、関東大震災程度の地震が起きたときに耐えられるものに補強するものである。耐用年数は50年となっているが、現在25年が経過しているが、さらに25年が経過した段階で、すぐに建て替えとするものではないと考えている。

②基本協定の締結については、仙北市で行う業務を代行して事業団に実施してもらう事になる。この業務代行については、下水道法にも合致しており、さらに、田沢湖浄化センターは昭和55年に事業に着手後、4回の増設工事を事業団に委託して進めてきている事。さらには、処理場を稼動しながらの再構築となり、全国の多くの自治体でも事業団に委託し、経験が豊富である事が理由である。

事業団は、工事する団体ではなく、設計から入札、完成検査、会計検査までを委託することになる。工事については、建物、土木、機械設備について、それぞれ入札を行うことになり、その入札の時点で競争原理が働くことになる。事業団が発注する段階で、地元の業者、地元の資材を活用する要望書の特記仕様書に明記するような発注の形を取りたいと考えている。

③同規模のものを新設するとなれば、最低でも20億円は超えるだろうといわれている。全会一致で可と決定

■平成24年度仙北市一般会計補正予算(第2号)

【歳入】 14款 県支出金農林水産業費県補助金

【歳出】 6款 農林水産業費

問 強い農業づくり交付金事業費補助金で、自己負担の270万円は、20年の償還期間となっているが、利息がかかるのか。据え置き期間があるのか。どのような返済計画で返済するのか。

答 ライスセンターの償還については、5年間無利子である。据え置き期間については、これから詰める。償還は、ライスセンターの利用料等でまかなう事になっている。

●7款 商工費

問 玉川温泉の安全対策事業費30万円を市が負担しているが、県の負担は幾ら

でどのような議論の場で結果はいつごろ出るのか。

答 県の負担が70万円、冬季利用が出来るか、出来ないかの検討を有識者から意見を聞いて、判断する為のものである。10月には結論を出したい。

●8款 土木費
●11款 災害復旧費

■国道46号の早期整備を求める意見書を産業建設常任委員会の委員全員の発議で提出
(熊谷一夫記)



再構築工事を行う田沢湖浄化センター

議会改革による委員会の新構成

各委員会構成、所属が大きく変わりました

昨年の6月定例会から議員報酬の引き下げが議論になり、これをきっかけに万般に渡って議会改革を推進すべきとの機運が高まり、議長命によって議会改革推進協議会を立ち上げ、激しい議論が戦わされてきました。議員報酬の削減と定数の削減は昨年末合意に達し、議決され報酬削減はすでに実施されていますが改革案による、委員会の構成変更は本定例会からとなります。最大の眼目は予算・決算委員会を常任委員会にして予算委員会は議長を除く全員に、決算委員会を議長及び議会選出の監査委員を除く全員とした事にあります。各常任委員会の委員が予算・決算全てに係ることになり予算の執行状況や決算の妥当性を一貫してチェックできる事になり、より予算執行の透明性を担保できることとなります。

(阿部則比古記)

総務文教常任委員会



委員長 高久昭二

副委員長 田口寿宜



狐崎捷琅



小田嶋忠



小林幸悦



伊藤邦彦



佐藤峯夫

市民福祉常任委員会



委員長 黒沢龍己

副委員長 八柳良太郎



高橋 豪



平岡裕子



阿部則比古



田口喜義



藤原助一

産業建設常任委員会



委員長 荒木田俊一

副委員長 熊谷一夫



門脇民夫



佐藤直樹



安藤 武



青柳宗五郎



稲田 修

各委員会・協議会所属名簿

予算常任委員会		決算常任委員会		議会運営委員会		議会改革推進協議会		市立角館総合病	院建設に特別委員	調査特別委員	調査特別委員
委員長	田口喜義	委員長	稲田 修	委員長	小田嶋忠	座 長	佐藤直樹	委員長	小田嶋忠		
副委員長	佐藤直樹	副委員長	伊藤邦彦	副委員長	門脇民夫	副 座 長	熊谷一夫	副委員長	小林幸悦		
議長を除く全議員		議長及び議会選出監査委員を除く全議員		委 員	平岡裕子	委 員	高橋 豪	委 員	高橋 豪		
				〃	阿部則比古	〃	門脇民夫	〃	熊谷一夫		
				〃	黒沢龍己	〃	平岡裕子	〃	阿部則比古		
				〃	荒木田俊一	〃	荒木田俊一	〃	佐藤直樹		
				〃	藤原助一	〃	青柳宗五郎	〃	黒沢龍己		
				〃		〃		〃	荒木田俊一		
								〃	伊藤邦彦		
								〃	高久昭二		
								委員 外員	青柳宗五郎		

議会広報編集特別委員会	
委員長	八柳良太郎
副委員長	平岡裕子
委 員	熊谷一夫
〃	狐崎捷琅
〃	田口寿宜
〃	阿部則比古
〃	伊藤邦彦
〃	青柳宗五郎
〃	稲田 修



ただし平成 23 年 11 月 30 日に設置済み

分かりやすい議会だよりをお届けします

垂天池の紹介

西木町上檜木内・大覚野牧場西方2・7kmに位置し、海拔740m（面積不詳）、水深4m、大覚野牧場西端から徒歩で1時間ちょっと。戦前鯉の養殖が試みられた経緯があり、今では体長2mの幻の大鯉が棲むといわれる。運が良ければ多数の大きな鯉を見る事が出来る。

呼称は本来は垂天池（たてち・地元では、たてちと濁音で呼ばれる。現在は垂天池沼とも呼ばれる。）ブナやカエデの原生林に囲まれ春の新緑、秋の紅葉は圧巻。周回歩道もありトレッキングコースとしても楽しめる。仙北市民必見のスポット。

（阿部則比古記）

副市長人事同意案件が定例会最終日の29日に市長より提案され賛成13反対6で可決された。ご本人は7月1日より仙北市副市長として就任している。現在は千葉県から単身赴任の状態を下宿住まいだが8月には奥さんと小学校5年生と1年生の娘さんもちちらに来て、仙北市民として一家庭でアパート住まいをする予定のようだ。趣味は車のレスト

【生年月日】昭和46年1月21日生（41歳）
 【最終学歴】千葉大学大学院園芸学研究科終了
 【主な職歴】平成8年～食品流通局砂糖類課。平成14年～食料庁企画課。平成17年～総合食料局商品取引監理官付補佐。平成21年～経営局経営政策課課長補佐。平成23年～食料産業局食品製造卸売り課課長補佐。



田邊浩之氏 本市副市長に

ア（錆びたり腐ったりした年代物の自動車をピカピカにのみがえらせる）だそうで、プロも顔負けの技術をもっているとの噂もある。

議会報告会

仙北市議会は、基本条例第7条により、5月17日(木)午後7時から3地区で実施した。

地区	田沢湖	角館	西木
会場	神代就業センター	角館交流センター	西木公民館
出席議員	八柳良太郎 小田嶋忠 荒木田俊一 狐崎捷琅 熊谷一夫 平岡裕子	稲田 修 安藤 武 小林幸悦 田口寿宜 佐藤直樹 伊藤邦彦 門脇民夫	黒沢龍己 阿部則比古 藤原助一 高久昭二 田口喜義 高橋 豪
参加市民数	6人	3人	4人
議会報告	報告会趣旨説明 総務常任委員会・教育民生常任委員会 産業建設常任委員会報告		
意見交換	①税不正問題について（当時の最高責任者の反応。当時の議会の責任は。議会としても精査すべき。返還会について 議会の権能を発揮する。） ②田沢湖・角館観光連盟について（3地区に観光協会があり補助金も拠出されている。連盟にも拠出している、重複することにならないか。効果はあるのか。）	①震災がれきの受け入れについて（野田村は仙北市よりも裕福と察する。野田村で処理できないか。放射能数値に安全などない。いろいろなデータを集め安全のための検討を。） ②市立病院について（人口の少ない市で2病院を抱えるのは無理。角館病院改築費用はどうなるのか。）	①市立病院について（田沢湖病院救急再開は可能か。角館総合病院の移転改築場所は落合地区でいいのか。） ②市内保育園の在り方について（開所日を日祝祭日はできないのか。民営化をどう思うか。融通がきけばいい。） ③地域運営体について（一律500万円は疑問。いかに知恵をだすか。課題はあるが否定はしない。）
要望・提言等	①道路神代中央線は工事が順調に進んでない。危険箇所もあるので早期に進行を図ってほしい。通学路としても重要道路なので安全に期してほしい。 ②市政を厳しく精査する議会になってほしい。 ③議会報告会の開催がとてもいい。農繁期でもあるが参りが悪い。周知に工夫がほしい。 ④水の問題は企業局ばかりで考えるのではなく、市民も一緒に考える問題である。 ⑤仙北市の農業基本構想をどうするか考えるべき。 ⑥職員の対応が悪い。直すべき点である。	①合併してから7年になるので、市民のアンケートをとって、それに基づいた色々なことを実施しなければ市はよくなる。地域エゴが出てくるので、市民が話し合える環境を議会が住民誘導してほしい。 ②議員定数が削減され、議員の選出できない地区もある。当番で議員の方が月一日2時間程度相談日を設けてほしい。 議会報告会を出席者の多い曜日、時間帯を検討する必要がある。婦人会等に特別にチラシを配付する等の工夫が必要。	①田沢湖病院の救急再開が難しいとすれば、角館病院移転改築における建築場所については、田沢湖・西木地区に配慮した位置にするべきではないか。 ②市内保育所については、働く者にとっては、日祝祭日が休みとは限らない。サービス業等に従事しているものであれば日祝祭日も仕事であるのが通常。考慮してほしい。子育て世代やこれからの若者にとって住みやすい環境を構築してほしい。

(平岡裕子 記)

インターネット議会中継 実証実験終了 9月定例会から本格稼働へ

「仙北市情報共有システム推進委員会」の皆様により行って頂いた、市議会インターネット中継の実証実験が昨年12月定例会から6月定例会までの計3回をもって終了致しました。今回は同委員会の坂本代表から実験の結果得られた課題や対応策について総括して頂きました。9月定例会からは本格稼働が決定しており、今後の参考にして参ります。

(高橋 豪 記)

実証実験を終えて

「仙北市情報共有システム推進委員会」 代表 坂本 洋

仙北市議会定例会（一般質問）のインターネット中継をこれまでに3回、ユーストリームという動画共有サービスを利用して行いました。実証実験では、インターネット回線状況の改善につなげました。多くの方に視聴してもらえ映像解像度の設定、ビデオカメラの設置位置等を検証いたしました。また、仙北市のホームページ上でアンケートを実施してもらい、インターネット中継の改善に繋がりました。音声の明瞭度では、検討の必要がありましたが、議場のマイクシステムが一新されるということで、9月定例会の本格稼働では、より良い状態で視聴できると思います。自宅等で議会を傍聴でき、多くの市民が仙北市議会に関心を持つきっかけになったという点で、この実証実験はうまくいったと言えると思います。



議会中継の様子

市立角館総合病院に関する 調査特別委員会中間報告

第5回特別委員会では、医師をはじめ、実際に現場で働いている方々と、意見交換をしながら、より良い病院建設を目指すという考え方で、看護師の皆さん方との意見交換を行った。

看護師の方達からは、現状と課題として次のような意見

があった。

○医療スタッフ不足による看護体制の構築

○看護師による患者へのフォローが大切

○重症患者看護中のナースコールへの対応や急性期同様

に看護が必要な慢性期患者へ手が回らない看護体制

控室

私の家のすぐ近くに朝早くから夜遅くまで実に働きの鈴木さんという御高齢の方がおられる。その方から時々出稼ぎの話などを聞いていると戦後の日本はこの方達で支えられて来たんだなという思い

でいっぱいだった。恐らく戦後、なにもない時代から立ち上がりこの方と同じ思いの方がこの仙北市にも沢山おられると思う。

その方が「たけのこ」取りで行方不明と聞いたときはいくらあの頑強で戦後、生き抜

いてきた精神力の強い鈴木さんでも残念ながら生きて還ることは無理かなという思いが日増しに強くなってきた。

その鈴木さんが20日間も生きることに執念を燃やし続け、生きていたという報を受け取ったとき「えがった。えがった」と涙が出てきた。

東日本大震災で「生」ということが見直されている。私達はどだい一人では生きられない。仲間とともに生き抜いていくしかない。でも、山中でたった一人で生き抜いてきた。このような鈴木さんのような精神力も大切な事実として胸に刻んでおく必要があるのではないか。

(狐崎捷琅 記)

へのジレンマ

○連絡調整と接遇向上の為の朝ミーティングの実施・看護師による入院患者アンケートの実施(クレームを解消し、退院までの信頼回復を図る)

○各病棟で個室が少なく狭い外来受付での時間帯による超過密混雑と外来内科受付の為に2階までの階段(高齢者にとってはつらいとの声)

○透析患者への設備等が十分である

○要望・提言としては

I、医療スタッフ(常勤医師及び看護師)の確保

II、脳外科に、県内で4人しかいない血管内認定医師がいる事をアピールして欲しい

III、病院へのクレームはすべて病院へ報告して欲しい(内容が把握できないと対応できない)

IV、各病棟でのトイレ付き個室をふやし、1室を4人ベッドにして欲しい

V、宿泊ドック用としてシャワー・トイレ付き個室を設置

VI、外来受付の時間帯による超過密混雑時のボランティア

アによる案内サポート体制

VII、外来受付のための階段の解消

VIII、感染防止対策加算2の取得を目指す

委員からの要望・提言

◆情報(クレーム・指示等)共有の徹底(医師事務局・各病棟・ナース各部門)

◆受付から会計までの患者の待ち時間を短縮する方法の検討(例えば事務職員との連携で受付時の超混雑を解消できないか)

◆ランチミーティングの検討

◆潜在的不満(クレーム)解消のための患者とその家族との懇談会の検討

◆先進事例に学ぶ研修の検討

◆終了後、西病棟避難路の安全確保と透析患者の現況について、事務長立会いの下、現地調査

を行い、早急に改善対策を講じるよう要望した。

(小田嶋委員長より)

貴重なご意見を頂いた。今後共要望や課題等があったら遠慮なく話して欲しい。現場の声を設計に盛り込む為には、基本設計までに協議を詰める必要がある。今後は、先進病院の視察も含めて協議を重ねていきたい。

(熊谷一夫記)



看護師代表の方々と活発な意見交換風景

仙北市議会会派

民政会 みんせい
 彦古 邦比 藤部 伊阿 邦則 比捷 阿狐 崎脇 門 民 夫 夫
 代表 長 兼 務 長
 代 副 幹 事 兼 理 經

翠巒会 すいらん
 悦一 義一 幸助 喜俊 林原 口田 幸助 喜俊 小藤 田荒 木 田 荒 木
 代表 長
 代 副 幹 事

志の会 し
 忠 良 太郎 宗 五郎 嶋 柳 柳 小田 八 青
 代表 長
 代 副 幹 事

仁政クラブ じんせい
 樹己 直龍 藤沢 佐黒 樹己 直龍 佐黒
 代表 長
 代 副 幹 事

日本共産党仙北市議団
 二子 昭裕 久岡 高平 高平 昭裕 久岡 高平
 代表 長
 代 副 幹 事

会派に所属しない議員

夫 修武 宜夫 豪 峯 一 寿 一 藤田 藤口 谷橋 佐稲 安田 熊高

人事案件

任期が切れる仙北市雲沢財産区管理委員は本会議で採決の結果次の方々が選任された。

高橋惣一郎 雲然田中92
 茂木千代太郎 西長野桂淵67
 青柳善悦 下延上川原2191
 鈴木國男 下延大前田206
 黒坂和夫 西長野鬼壁102
 菅原悠一 八割西ヶ沢113
 伊藤隆一郎 西長野上野98111

傍聴席

マニフェストの検証結果の公表を

進藤謙作(角館町)

私は、角館町より一般質問の2日目(6月14日)の議会の傍聴に仲間6名と行った一人です。まず感じましたことは、議場までの時間がかかり、余程関心のある議題でもない、中々行き難いと申し訳ありませんが感じました。又、議場の広さの割合には傍聴席の狭さを感じました。当日の若手議員の2人の一問一答の質疑応答は傍聴者にとりましては大変わかり易く、理解しやすいと思えました。門脇市

長に対して、マニフェストの達成目標の進捗状況についての質問がありました。市長の答弁は検証委員会で検証をしているとのことでしたので、ぜひ市民に公表していただき、ますようをお願い申し上げます。今後の議会にも大勢で傍聴にまいりたいと思っております。

開かれた議会を望む

長谷川善樹(田沢湖)

仙北市議会は公開された議会でしょうか。市民との情報の共有はなされているのでしょうか。21名の各議員の思いは。今のままで良い方。開こうと思っている方。十人十色ではないのでしょうか。市民のどれくらいの方が、年に何回議会が開催されている

ることを知っているのでしょうか。〇〇月の〇〇日に今度議会があるので、聞きに来てくれ、見に来てくれと声を掛けられたことのある方は、何人いるのでしょうか。自分の仕事場に多くの市民を招くことが情報の共有に繋がると思っています。

傍聴をしていただける議会ではなく、傍聴を楽しみにしている市民が多くなる議会を望みます。日々の情報や目を市民方向に。

改めて仕事をみつめるきっかけに

筒崎祐也(西木町)

今回、職場研修として市議会定例会の一般質問を傍聴いたしました。私自身、議会を傍聴するのは初めての体験で

制限時間がある一般質問は緊張がありました。また、一般質問はそのまま質問するのではなく、仙北市の抱える問題や他の市町村が行っていることなど質問するに至った経緯を説明した上で質問されていたので傍聴して分かったやすかったです。市長や教育長は議員の質問に対して自身の考えも踏まえて今後、仙北市をどのようにしていきたいかを明確におっしゃっていました。

市議会定例会の一般質問を傍聴して仙北市の課題を改めて認識しました。その課題を無くすため、自分の業務の改善に取り組みたいと思えます。そしてより良い仙北市の実現に向けて努めたいと思いました。

編集後記

「長生きの薬」があるらしい。議員の控え室には様々な出入りがある。人や物だけでなく情報も。議員はストレスの多い疲れのたまりやすい職業である。同僚がA議員からわけてもらい試飲した。

しかし、価格が数千円で安く、疲労回復が早い?のにも、大人気と言うほどでもない。石橋をたたく習性が購入を足踏みさせたのか? 藤原議員から議会運営委員長辞職の願いがあった。

薬の効能や健康の有難みについて深く考えさせられた。(八柳良太郎記)